

どこまでもどこまでも歩き続けたい雪の稜線

谷川連峰

上州大源太山

女子3人の誰のパワーか？1月の新潟とは思えない青空の下を歩ける事に、誰かとにかく感謝！しかし翌日天気は一転し、暴風となり試練の山に・・・山の神様、見てるね～。

【日程】

2018年1月13日(土)
～1月14日(日)

【メンバー】

竹澤(L)、星野、
佐藤R

【地形図】

三国峠

【記】星野

1月13日(土)：快晴！

連日の北陸大雪、交通網ストップのニュースに不安を感じながら、深夜酔っぱらい達が右往左往する池袋を出発した。バスはガラガラで、終点まで爆睡し、快適な旅だった。苗場プリンスはキラキラが眩しい巨大リゾート地で、バブルの名残を感じさせる。ユーミンとかコンサートしたんだよな～。カラフルなウェアでみんなキラキラしてスキーしたんだろうな。(私の世代じゃないです！)暖房の効いた無料の休憩所でゴロゴロし、夜明け頃出発する。ぬくぬくから、極寒への最初の一步が何よりも試練。凍てつく道を歩き、浅貝スキー場跡地から取り付く。ゲレンデ跡地の斜面を登るが、あれ？雪思ったより沈まない。雪が少ない。これは嬉しい誤算です。

ふと後ろを振り返れば朝焼けに染まる山々が美しい。今日は良い天気になりそうだ！

スノーシューでは歩きにくい程雪が少ない場所もあるが、標高が上がるにつれ、フカフカの雪に。

1352mの鉄塔でひとまず小休止をとりながら、周囲の白い山々の展望を楽しむ。雲一つない青空に雪の白さが眩しい。これから歩く尾根が、空に向かってウネウネ続いており、ワクワクする。

みんな笑顔がこぼれる。トップを歩く竹澤さんの背中が嬉しそう。ジワジワ高度をあげると

平標へと続く稜線に出た。そこには、三角山の小さな標識があった。三国峠へと続く稜線も非常に魅力的だが、それは次回のお楽しみで、今日はあっちを目指すのです！雪底はまだそんなに発達してないので、歩きやすい。大源太の直下は、広い雪の斜面で、スキーで滑ったら気持ち良さそう。

ここが今日一番幸せな登りだった。どこでも登れる真っ白な斜面に、後ろを振り返れば大パノラマ「あ～幸せ過ぎる」



急斜面を登りきった平坦地に荷物をデポし、身軽になり山頂へ向かう。

大源太の山頂には立派な標識があり、ここまで来て初めて谷川岳への稜線を見る事が出来た。



仙の倉から谷川岳へ続く稜線は純白で美しく、いつか歩きたい！あっちもこっちも行きたい山ばかりで、何時間でも見ていられるが、本日の宿へはまだ歩かねばならないので名残惜しくも出発。目標とする平標山は前方にはっきり見える。稜線は細いので、雪庇が発達していれば気を使うが、今日はまだ小さいので、出来るだけ山側を歩く様にする。雪は、深くなり、時々踏み抜きながらも景色に心癒されながら楽しく歩き続け、気付けば前方に今日の宿「平標山避難小屋」が見えて来た！小屋1F部分は雪に埋まっており、2Fから中に入る。小屋の中でくつろいでいると、何と、単独のお客様が来た。男性で、平標山登山口から登って来たとの事。夜は暖かく快適に眠れた。小屋ってありがたい。。

1月14日(日) : 暴風、ガス

朝は猛烈に寒く、震えながら支度をしていると、外ではゴウゴウ風の音がしている。嫌な予感。意を決して外に出ると、昨日とは別世界、真っ白で何も見えず、爆風が叩き付ける様だ。



同じ山と思えないが、これが本来の冬山なのだろう。お互い離れない様にながら、平標山を目指す。今日はこれ以上登る事は危険と判断し、ヤカイ沢の左岸尾根から下山する事にした。視界が悪い為、下降地点を地図やGPSで慎重に確認しながら下山する。爆風とガスという厳しい状況の中で、冷静に判断し行動できる力が必要なのだと実感した。高度を下げるにつれ、風は穏やかになり視界も良く、あっという間に下界に下りて来てしまった。





【行程】

- 1/12 浅貝スキー場 (6:30) ～大源太山 (11:30) ～平標避難小屋 (12:40)
- 1/13 平標避難小屋 (6:10) ～登山口バス停 (11:00)